

※ 海外ニュース ※

ドイツ 2019年4月29日 Verkehrsrundschau オンライン版

■ 道路運営改革、数年の延期に

Reform der Autobahnverwaltung verzögert sich um mehrere Jahre

アウトバーン運営の中央集権化は、予定された2021年には行われないと報道がされた。新たに設立された連邦アウトバーン会社の代表シュテファン・クレンツ氏が、複数の州交通相にその旨を伝えたと、『ハンデルスプラット』紙が本日報じている。同社の内部文書から同紙が引用したところによると、「2025年かそれ以降まで」は「実務上の当座の解決」が必要になるという。そのため、今後も引き続き国に代わって諸州がほとんどのアウトバーンを管理することになる。

ドイツ（スイス） 2019年4月29日 Verkehrsrundschau オンライン版

■ スイス、議論を呼ぶ中国の「一带一路」に加わる

Schweiz schliesst sich Chinas umstrittener "Neuen Seidenstrasse" an

中国の習近平国家主席とスイスのウエリ・マウラー大統領が本日、北京で会談を行い、一带一路に関する覚書に署名した。スイスのコメントによると、これは「資金・経済面を焦点にした」意思確認だという。これにより、両国は貿易、投資、プロジェクト出資において協力していく。

アメリカ 2019年5月2日 TechLink

■ 陸軍工兵隊が超高機能コンクリートの独占的商用権をバージニア州の企業に与える

Corps of Engineers grant Virginia company exclusive commercial license for Cor-Tuf ultra-high performance concrete

米国陸軍工兵隊が「Cor-Tuf UHPC」という名のコンクリートを開発した。陸軍工兵隊の地質工学的構造研究所で設計されたこの注目に値する素材は、リサイクルされた農業副産物、カルシウム鉱物、水から作られ、従来のコンクリートの10倍の強度を備えている。

このCor-Tuf UHPCは、陸軍では核施設の防爆壁や在外大使館向けの建材として設計されたが、将来的にはこれにより世界で最も頑丈な高速道路や橋梁を造ることもできる。その場合の耐用年数は、標準的なコンクリートの3倍の75年と試算されている。

スペイン 2019年5月3日 Cinco Días オンライン版

■ ACSとアトランティア、5月10日に8億6,300万ユーロ以上の最初のアベルティスの配当金を受け取る

ACS y Atlantia cobrarán el 10 de mayo un primer dividendo de Abertis de más de 863 millones

具体的には、金曜日にアベルティスがスペイン証券取引委員会（CNMV）に行った報告によると、同社は、1株当たり0.96ユーロの総配当を分配し、カイシャバンクが支払いを代行する。

アメリカ 2019年5月9日 Tolling Points

■ インフラ週間に先駆けて：改修工事が必要なのに未着手の橋梁の多さは、資金調達の課題を示している

Infrastructure Week Ahead : Bridge Repair Backlog Points to Funding Challenge

全米道路・交通建設業組合（ARTBA）が、数々の衝撃的な内容の統計から、その本質的な部分を抽出した。

- ・米国の乗用車、トラック、スクールバスは、1日に合計4万7000回、構造上欠陥のある橋梁を通過している。

・現在と同じペースで改修工事を進めた場合、改修が必要なすべての橋梁を基準に達した状態にするのにあと80年はかかるだろう。

「構造上欠陥のある橋梁を含め、全米には構造上の改修・復旧・架け替えが必要な橋梁が235,000近くある」とARTBAは述べている。また、連邦道路庁(FHWA)の平均コストのデータを基に試算すると、「235,000橋すべてに特定の改修を施した場合、1,710億ドル近くになる」と指摘した。

中国 2019年5月10日 新華社通信

■ 中国、2019年末までに道路料金所のブースを全廃へ

China to remove all expressway toll booths by end of 2019

5月10日、中華人民共和国交通運輸部(MOT)の担当官が、高速道路の料金所ブースを全廃するという政府の目標への具体的な日程を明らかにした。日程に合わせるために、今後MOTは、道路通行料徴収システムの改善、および一時停止不要の自動徴収システム(ETC)の適用促進にかかる業務を加速させる。

通常時に省境の通過に要する時間は、乗用車では従来の15秒から2秒削減され、トラックでは従来の29秒から3秒削減されると試算されている。これにより渋滞問題が解消に向けて著しく進歩し、省エネや排気ガスの排出削減にもつながると期待されている。

イタリア（スウェーデン） 2019年5月10日 Repubblica

■ 走行中に電気自動車を充電できる初の幹線道路がスウェーデンに

Svezia, arriva la prima autostrada in grado di ricaricare i veicoli in movimento

ヴィスピュー市からゴットランド島にある空港までを結ぶ4.1kmにわたる幹線道路のうち1.6kmの区間で、実証実験が開始された。この実験の目的は電気自動車が走行中でもフル充電の状態を保てるかどうかを確認することである。

スウェーデン政府は、この計画を積極的に進めているが、その理由には、将来的にはこのゼロエミッション走行中充電システムを自国の2,000kmにわたる幹線道路に導入する計画があるようだ。費用は3億ユーロを超すが、スウェーデンにとってこれは新世代の環境ソリューションの象徴である。

ドイツ 2019年5月12日 Weltオンライン版

■ eハイウェイの開始がさらに遅延

Start des E-highway verzögert sich weiter

ヘッセン州では先週より、架線から給電するトラックの走行がアウトバーン5号線で試験的に始まっている。それに対して、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州はテスト区間の開通を保留した。アウトバーン1号線のラインフェルト～リューベック間の工事はすでに終わっているが、必要となる車両の納入が遅れている。特殊な集電装置を備えたトラック5台のうち最初の1台が納入されるのは9月末以降になるだろうと、運送会社Spedition Bodeの代表、カイ＝イエルク・ボーデ氏は語った。

ドイツ 2019年5月13日 Verkehrsrundschauオンライン版

■ バルト海トンネルの採算性を疑う調査結果が発表

Studie stellt Rentabilität des Ostseetunnels in Frage

シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州の計画確定局の委託で行われた調査で、フェーマルン海峡の横断が予測される車両交通の1/3強、貨物交通の40%弱がトンネルの開通後もフェリーを利用するという結果が出た。

「もし調査のとおりになれば、トンネル運営会社の予定収入の約1/4が失われることになる」と地元代議士は語った。ドイツのフェーマルン島とデンマークを結ぶこの長さ約18kmの鉄道・道路トンネルは、2028年より開通する予定である。ユーロ換算で約70億（526億デンマークローネ）の費用はデンマークが負担する。

イギリス（ノルウェー） 2019年5月16日 ITS International

■ 自動運転とMaaSの活用で交通量を14%削減できる可能性があるとの報告書

Report: AVs and MaaS could 'reduce traffic 14%'

市民が従来型のマイカー所有から、移動のサービス化（MaaS）や、出発地点から到着地点までオン・デマンドの自動運転車サービスを利用する生活様式に切り替えた場合、都市交通においては大幅な交通量削減が可能になるかもしれないという報告書が新たに発表された。

『オスロ報告書——自動運転車がどのように都市交通を変え得るか』と題されたこの報告書には、「最も楽観的なシナリオでは14%の交通量削減が可能」と書かれている。しかしこの研究チームは、この交通量削減のポテンシャルは「過去に他の都市が行った研究の推計値より低く」、また各サービスの組み合わせ方が適正でないと、かえって交通量が増加するおそれがあるとも指摘している。2019年度の「欧洲グリーン首都」賞を受賞したオスロ市は、2029年までに自動車の利用を1/3削減するという目標を掲げている。

フランス 2019年5月23日 Eiffage

■ 相乗り用レーンを開放するための実験

Une expérimentation pour ouvrir la voie au covoiturage !

パリ～リヨン間を通るA6高速道路上マコン・ノール付近において、APRRとPryntecの共同による実験が行われている。車内の乗員数を自動でカウントするための革新的なソリューションをテストするものである。

具体的には、2019年5月10日以降、中央分離帯に設置された高度なシステムにより、高速（130km/h）で走行する車の占有率を分析するもの。本実験では、昼夜のあらゆる時間帯やさまざまな天候条件下におけるこの革新的システムの性能評価も同時にを行うことを目的としている。新しいシステムは、「ディープ・ラーニング」もしくは自己学習と呼ばれる技術を用いたもので、使用に応じて徐々にソフトウェアの性能がアップするようになっている。A6高速道路上での実験結果が決定的なものとなれば、このシステムは2020年よりAPRRが実験を行う予定のレーンにも展開される予定。各種メッセージを表示するパネルに教育的メッセージを掲示することにより、相乗り専用レーンのより有効な活用をカードライバーに呼びかけることを目標としている。

ドイツ 2019年5月24日 ドイツ連邦道路交通研究所

■ 渋滞における各道路区間や各ジャンクションの相互作用

Wechselwirkungen zwischen Streckenabschnitten und Knotenpunkten in Überlastungssituationen

個々のジャンクションや登坂区間などに車両が集中すると、目の細かいアウトバーン網では隣接する区間やジャンクションまで渋滞することがある。1つの要素の過負荷によって他の要素にまで渋滞が及ぶ点については、これまでの規定では考慮していなかった。そのため、連邦道路交通研究所（BAST）の委託により、アメリカで数年前から導入されているツールFREEVALを基に、ドイツの状況に合った手法が開発された。現在はプロトタイプのこのツールを用いることで、将来的にはアウトバーンの増築などが現在の計画手法よりも適切かつ容易に計画できると考えられる。